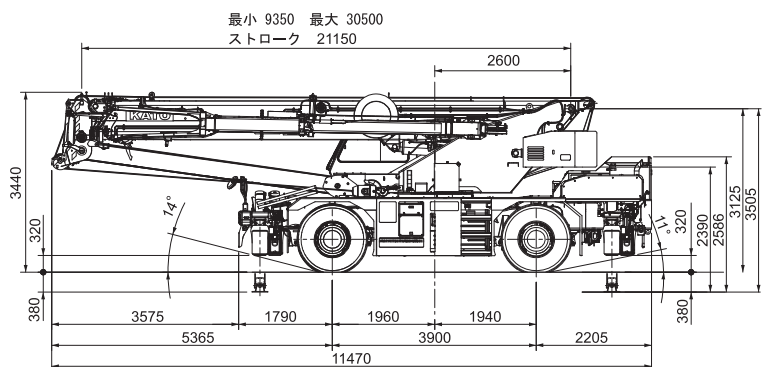
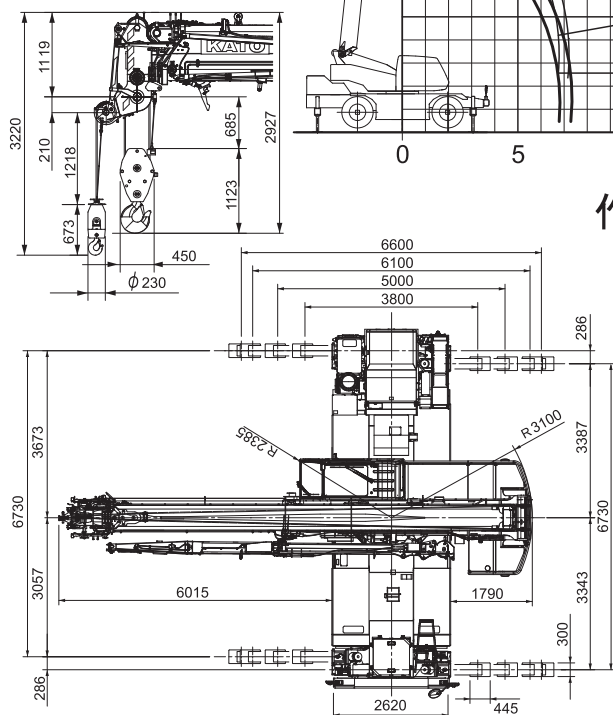
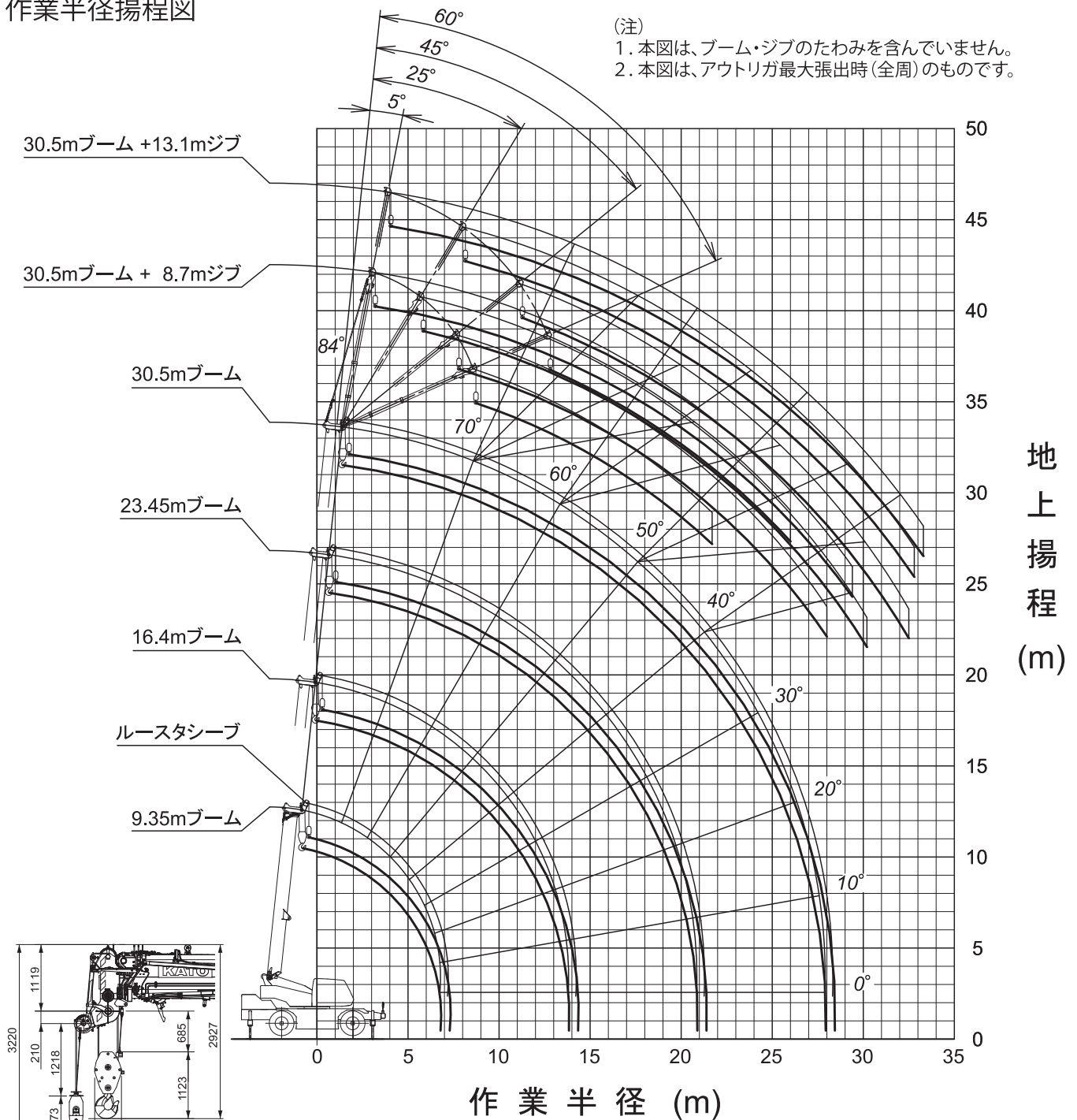


25t ラフタークレーン

SR-250Ri

(KATO KR-25H-V8)

作業半径揚程図



ランブレイクオーバーアングル: 21°
 サスペンションロック時全高より: -40mm
 (サスペンションシリンダ最縮小)

■定格総荷重表

作業半径 (m)	 (6.6m)			
	アウトリガ最大張出(全周)			
	9.35m ブーム	16.4m ブーム	23.45m ブーム	30.5m ブーム
2.5	25.00	15.00	12.50	
3.0	25.00	15.00	12.50	
3.5	25.00	15.00	12.50	8.00
4.0	23.50	15.00	12.50	8.00
4.5	21.50	15.00	12.50	8.00
5.0	19.60	15.00	12.50	8.00
5.5	17.80	15.00	12.50	8.00
6.0	16.30	15.00	12.20	8.00
6.5	15.10	15.00	11.50	8.00
7.0		14.00	10.80	8.00
7.5		12.75	10.20	8.00
8.0		11.60	9.60	8.00
9.0		9.50	8.60	7.60
10.0		7.80	7.70	6.90
11.0		6.50	6.80	6.30
12.0		5.55	5.85	5.60
13.0		4.75	5.05	4.90
13.5		4.45	4.70	4.60
14.0			4.40	4.40
15.0			3.85	4.00
16.0			3.40	3.55
17.0			3.00	3.15
18.0			2.65	2.80
19.0			2.35	2.50
20.0			2.10	2.25
20.5			2.00	2.10
21.0				2.00
22.0				1.80
24.0				1.40
26.0				1.10
27.9				0.90
危険角度	—	—	—	—
標準フック	25t フック			
フック質量	230kg			
巻掛本数	7	6	4	4

■定格総荷重表注意事項

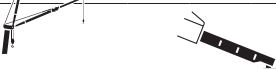
●アウトリガ使用

- 1 定格総荷重表は水平堅土上において機体を水平に設置した状態での保証できる最大荷重を示しており、ブーム作業時は主フックとつり具、ジブ作業時は補助フックとつり具の質量を含んだ値です。
【25tフック(質量230kg)、4tフック(質量60kg)】
 部分は機械の強度によって、他は機体の安定度によって定められています。
- 2 作業半径はブーム、ジブのたわみを含んだ実際の値にもとづいていますので、必ず作業半径を基準として作業を行ってください。
- 3 ジブの作業半径は23.45mまたは30.5mブームにジブを装着して作業を行った場合の値です。23.45m未満のブーム長さでのジブ作業を行う場合は、作業半径ではなく23.45mブームの角度を基準としてください。

5°～60°
【30.5mブーム+8.7mパワージブ】

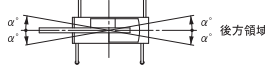
ブーム 角度 (°)	 (6.6m)							
	アウトリガ最大張出 (全周)							
	オフセット5°		オフセット25°		オフセット45°		オフセット60°	
作業 半径 (m)	荷重 (ton)	作業 半径 (m)	荷重 (ton)	作業 半径 (m)	荷重 (ton)	作業 半径 (m)	荷重 (ton)	
84	4.1	3.30	7.0	2.30	8.9	1.70	9.4	1.05
80	7.1	3.30	9.9	2.30	11.4	1.60	11.8	1.05
77	9.4	3.30	11.9	2.30	13.2	1.50	13.5	1.05
75	10.9	3.30	13.3	2.30	14.4	1.45	14.6	1.00
73	12.2	3.20	14.6	2.20	15.5	1.45	15.8	1.00
71	13.6	2.85	15.7	2.05	16.6	1.40	16.8	1.00
69	14.9	2.60	16.9	1.90	17.7	1.35	17.8	1.00
67	16.1	2.40	18.0	1.80	18.8	1.35	18.8	1.00
65	17.3	2.20	19.1	1.70	19.8	1.30	19.7	1.00
62	19.1	1.95	20.8	1.55	21.3	1.30	21.2	1.00
61	19.6	1.90	21.3	1.50	21.8	1.30	21.7	1.00
58	21.4	1.70	22.8	1.40	23.3	1.25		
55	22.9	1.45	24.3	1.30	24.6	1.25		
53	23.8	1.25	25.2	1.15	25.5	1.15		
50	25.3	1.00	26.5	0.95	26.6	0.95		
46	27.1	0.75	28.0	0.70	28.0	0.70		
45	27.5	0.70	28.4	0.65				
40	29.4	0.47	30.2	0.44				
危険角度	39°		39°		45°		60°	
標準フック	4tフック							
フック質量	60kg							
巻掛本数	1							

5°～60°
【30.5mブーム+13.1mパワージブ】

								
(6.6m)								
アウトリガ最大張出 (全周)								
ブーム 角度 (°)	オフセット5°		オフセット25°		オフセット45°		オフセット60°	
	作業 半径 (m)	荷重 (ton)	作業 半径 (m)	荷重 (ton)	作業 半径 (m)	荷重 (ton)	作業 半径 (m)	荷重 (ton)
84	4.9	2.10	9.5	1.25	12.5	0.85	13.6	0.65
80	8.4	2.10	12.5	1.25	15.1	0.85	16.1	0.65
77	10.9	2.10	14.7	1.25	17.1	0.85	17.8	0.65
75	12.6	2.10	16.2	1.25	18.4	0.85	18.9	0.65
73	14.2	2.10	17.6	1.20	19.6	0.85	20.1	0.60
71	15.8	2.00	18.9	1.10	20.8	0.85	21.2	0.60
69	17.2	1.85	20.2	1.10	21.9	0.80	22.2	0.60
67	18.6	1.75	21.5	1.05	23.0	0.80	23.2	0.60
65	20.0	1.60	22.8	1.00	24.2	0.80	24.2	0.60
62	21.9	1.45	24.6	0.95	25.8	0.80	25.5	0.60
61	22.5	1.40	25.1	0.95	26.3	0.80	26.0	0.60
58	24.4	1.25	26.8	0.90	27.7	0.75		
55	26.2	1.15	28.4	0.90	29.1	0.75		
53	27.2	1.05	29.4	0.85	30.0	0.75		
50	28.7	0.85	30.7	0.75	31.1	0.75		
46	30.7	0.60	32.4	0.55	32.5	0.55		
45	31.1	0.55	32.8	0.50				
40	33.3	0.37						
危険角度	39°		44°		45°		60°	
標準フック	4tフック							
フック質量	60kg							
巻掛本数	1							

- 4 アウトリガ張出状態によって側方領域でのつり上性能は異なります。従って各々の張出状態における定格総荷重表で作業を行ってください。また、前方、後方領域でのつり上性能はアウトリガ最大張出の定格総荷重表でそれぞれ作業を行ってください。

アウトリガ 張出状態 領域 α°	中間張出 (6.1m)	中間張出 (5.0m)	中間張出 (3.8m)
	35	30	20



- 5 ルースタシーブの定格総荷重は、ブームの定格総荷重よりブームに取付けられているフックその他のつり具の質量を差引いた値とし、かつ限度を4000kgとします。
【ルースタシーブ使用フック:4tフック(質量60kg)巻掛本数1】
- 6 ブーム長さ、ブーム角度、作業半径、ジブ長さおよびジブ角度が規定の値をこえる場合にはその規定の値と、次の規定の値の定格総荷重のうち小さい方の定格総荷重を目安として作業を行ってください。
- 7 ジブを装着したままでブーム作業を行う場合の定格総荷重は、ブームの定格総荷重よりフックその他のつり具等の質量の他に2400kgを差引いた値とし、かつ上限を12tonとします。なおジブを装着したままでのルースタシーブ作業、およびアウトリガ最縮小張出におけるジブを装着したままでのブーム作業は行わないでください。
- 8 各々の作業状態におけるブーム危険角度は表のとおりです。ブームを危険角度以下にしますと無負荷でも転倒しますので充分注意してください。
- 9 各ブーム長さに対する標準フック巻掛本数は表のとおりです。ただし標準巻掛本数以外の掛数で使用する場合は、ワイヤロープ1本当たり37.2kN(3.8tf)を限度としてください。
- 10 フック巻掛本数7本で作業を行う場合はルースタシーブを使用してください。
- 11 高速巻下作業は、フックのみを降下するときに使用してください。また急激なレバ操作はさけてください。
- 12 クレーン作業は風速10m/sまで可能ですが、比較的弱い風の場合でも受風面積の大きい荷重を取扱う場合は特別な注意を払ってください。
- 13 定格総荷重をこえる作業を行った場合、および正しい使い方を行ななかった場合は転倒または破損します。この場合本機の保証はいたしません。